

17
2014

特集 都市創造の新潮流
未来に向けたまちづくりキーワード
■小学生が文化財をガイドする
子どもが地域の文化財について学び、地域に愛着を持つための機会として「文化財こどもガイド」を半田・犬山・新城の3箇所の建物で実施した。2012年度より始まり3度目となる今回も愛知登文会の事業として行ったが、今後の継続性のためには、所有者・地域・小学校などの連携が必要となるだろう。(2014年)

子どもを対象とする取り組みは愛知登文会独自のものともいえ、体験事業とあわせ、その取り組みを紹介する実践事例集を平成27年11月に発行。平成26年からは特別公開事業を実施。所有者、専門家、市民など文化財に関わる多くの方の協力で実施することができ、ネットワークの広がりをみせている。

特集 ひと・まちを動かすマネジメント

**■歴史文化を活かし新たな文化を紡ぎだす
~四間道・那古野界隈の地域まちづくり~**

2012年10月、地域の力で地域を育てるべく、地元組織など13団体が会員となり、まちづくり協議会が発足した。地域の認知度を把握するための住民向けアンケートの実施や、2017年3月廃校予定の小学校施設の跡地活用に向けて名古屋市に学区と共同で要望書を提出するなど、実践的な活動の経験を活かし、地域まちづくり構想案の確定を目指している。(2015年、特集)

まちづくり協議会の活動は続き、2016年1月に地域まちづくり構想を作成。なお、四間道・那古野界隈は、様々な団体により、商店街、町並み保存地区、堀川を舞台としたイベント、町家等のリノベーション、町並み保存に向けた取り組みなどが行われ、都心界隈の注目スポットの一つとなっている。

19
2016

ネットワークを広げるきっかけづくりというラバダブの役割は変わっていないものの、この20年でSNS等情報発信手段の多様化により、紙媒体のあり方は大きく変化している。ラバダブ創刊時は、まだネット上の情報は限定的で、機関紙や雑誌などの記事が重要な情報源だった。現在ではネット上の様々な情報を簡単に検索できるが、一方で情報が多くなるがゆえに読むのに時間がかかる。また、ネットワークづくりに関してはSNSでの頻繁な交流と比較し、年1回発行のラバダブでは太刀打ちできない。

しかし、ネットがあれば紙媒体は不要ということではなく、ネットをより活用するための紙媒体のあり方もあると考える。それは読者が求める情報へ誘導するきっかけを提供することではないかと。ラバダブではスペシアという目を通して選んだ情報を伝えていきたい。

Twitterの140字という文字数制限は伝えたいことを伝えられる最適な文字数であるともいわれている。簡潔にしっかりと伝えていくことを意識しながら、スペシアとしてのまちづくりへの思いを発信していきたい。

20
2017

特集 「歴史文化」を
みつめ・そだて・つなぐ
**■古民家空き家を活かす
~美浜町での取り組み~**

美浜らしさを感じる黒い木造の「鎧廻いの家」の町並みが減ってきていた。行政と大学が連携し、高齢者向けサロンと子育て中の親子向けサロンを古民家空き家で実験的に開催し、古民家の魅力を多くの人に感じてもらった。古民家の保存・活用のため、今後もこうした取り組みを継続していくことが望ましい。(2013年、特集)

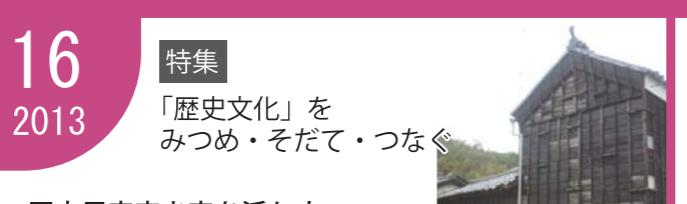
「空き家問題」に多く関わる端緒となった業務。残念ながらこの空き家に関しては、地域からの保存活用の声を生み出せずに終わってしまったが、大学と連携した活用実験はまちづくりにおける空き家活用の有効性を示したと思う。多様な主体をいかに巻き込み、地域の共感を生み出していくかが重要だろう。

特集 ひと・まちを動かすマネジメント

**■歴史文化を活かし新たな文化を紡ぎだす
~四間道・那古野界隈の地域まちづくり~**

2012年10月、地域の力で地域を育てるべく、地元組織など13団体が会員となり、まちづくり協議会が発足した。地域の認知度を把握するための住民向けアンケートの実施や、2017年3月廃校予定の小学校施設の跡地活用に向けて名古屋市に学区と共同で要望書を提出するなど、実践的な活動の経験を活かし、地域まちづくり構想案の確定を目指している。(2015年、特集)

まちづくり協議会の活動は続き、2016年1月に地域まちづくり構想を作成。なお、四間道・那古野界隈は、様々な団体により、商店街、町並み保存地区、堀川を舞台としたイベント、町家等のリノベーション、町並み保存に向けた取り組みなどが行われ、都心界隈の注目スポットの一つとなっている。



15
2012

特集 Take a wander
~街中をぶらぶら歩こう~
**■久屋大通が名古屋を変える
~豊かな公共空間を活かした都心の魅力アップ~**

栄地区には大須や栄ミナミなど面的に個性あるエリアが広がり、それを久屋大通が南北軸として結んでいる。衰退の懸念の声も聞かれる中、久屋大通を有効活用した魅力向上を目指し、ワークショップや7つの大学研究室による提案模型の展示など、市民を巻き込んだ取り組みが進められている。(2012年、特集)

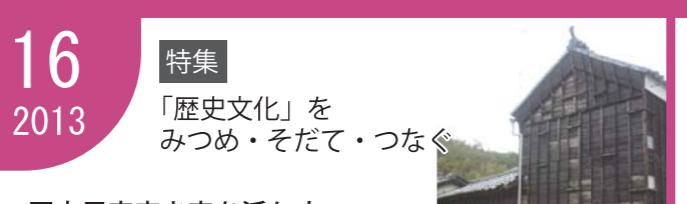
「空き家問題」に多く関わる端緒となった業務。残念ながらこの空き家に関しては、地域からの保存活用の声を生み出せずに終わってしまったが、大学と連携した活用実験はまちづくりにおける空き家活用の有効性を示したと思う。多様な主体をいかに巻き込み、地域の共感を生み出していくかが重要だろう。

特集 ひと・まちを動かすマネジメント

**■歴史文化を活かし新たな文化を紡ぎだす
~四間道・那古野界隈の地域まちづくり~**

2012年10月、地域の力で地域を育てるべく、地元組織など13団体が会員となり、まちづくり協議会が発足した。地域の認知度を把握するための住民向けアンケートの実施や、2017年3月廃校予定の小学校施設の跡地活用に向けて名古屋市に学区と共同で要望書を提出するなど、実践的な活動の経験を活かし、地域まちづくり構想案の確定を目指している。(2015年、特集)

まちづくり協議会の活動は続き、2016年1月に地域まちづくり構想を作成。なお、四間道・那古野界隈は、様々な団体により、商店街、町並み保存地区、堀川を舞台としたイベント、町家等のリノベーション、町並み保存に向けた取り組みなどが行われ、都心界隈の注目スポットの一つとなっている。



特集 「歴史文化」を
みつめ・そだて・つなぐ
**■古民家空き家を活かす
~美浜町での取り組み~**

美浜らしさを感じる黒い木造の「鎧廻いの家」の町並みが減ってきていた。行政と大学が連携し、高齢者向けサロンと子育て中の親子向けサロンを古民家空き家で実験的に開催し、古民家の魅力を多くの人に感じてもらった。古民家の保存・活用のため、今後もこうした取り組みを継続していくことが望ましい。(2013年、特集)

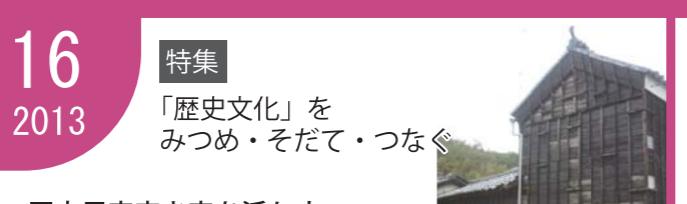
「空き家問題」に多く関わる端緒となった業務。残念ながらこの空き家に関しては、地域からの保存活用の声を生み出せずに終わってしまったが、大学と連携した活用実験はまちづくりにおける空き家活用の有効性を示したと思う。多様な主体をいかに巻き込み、地域の共感を生み出していくかが重要だろう。

特集 ひと・まちを動かすマネジメント

**■歴史文化を活かし新たな文化を紡ぎだす
~四間道・那古野界隈の地域まちづくり~**

2012年10月、地域の力で地域を育てるべく、地元組織など13団体が会員となり、まちづくり協議会が発足した。地域の認知度を把握するための住民向けアンケートの実施や、2017年3月廃校予定の小学校施設の跡地活用に向けて名古屋市に学区と共同で要望書を提出するなど、実践的な活動の経験を活かし、地域まちづくり構想案の確定を目指している。(2015年、特集)

まちづくり協議会の活動は続き、2016年1月に地域まちづくり構想を作成。なお、四間道・那古野界隈は、様々な団体により、商店街、町並み保存地区、堀川を舞台としたイベント、町家等のリノベーション、町並み保存に向けた取り組みなどが行われ、都心界隈の注目スポットの一つとなっている。



15
2012

特集 Take a wander
~街中をぶらぶら歩こう~
**■久屋大通が名古屋を変える
~豊かな公共空間を活かした都心の魅力アップ~**

栄地区には大須や栄ミナミなど面的に個性あるエリアが広がり、それを久屋大通が南北軸として結んでいる。衰退の懸念の声も聞かれる中、久屋大通を有効活用した魅力向上を目指し、ワークショップや7つの大学研究室による提案模型の展示など、市民を巻き込んだ取り組みが進められている。(2012年、特集)

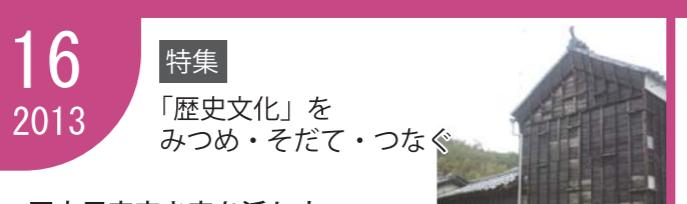
「空き家問題」に多く関わる端緒となった業務。残念ながらこの空き家に関しては、地域からの保存活用の声を生み出せずに終わってしまったが、大学と連携した活用実験はまちづくりにおける空き家活用の有効性を示したと思う。多様な主体をいかに巻き込み、地域の共感を生み出していくかが重要だろう。

特集 ひと・まちを動かすマネジメント

**■歴史文化を活かし新たな文化を紡ぎだす
~四間道・那古野界隈の地域まちづくり~**

2012年10月、地域の力で地域を育てるべく、地元組織など13団体が会員となり、まちづくり協議会が発足した。地域の認知度を把握するための住民向けアンケートの実施や、2017年3月廃校予定の小学校施設の跡地活用に向けて名古屋市に学区と共同で要望書を提出するなど、実践的な活動の経験を活かし、地域まちづくり構想案の確定を目指している。(2015年、特集)

まちづくり協議会の活動は続き、2016年1月に地域まちづくり構想を作成。なお、四間道・那古野界隈は、様々な団体により、商店街、町並み保存地区、堀川を舞台としたイベント、町家等のリノベーション、町並み保存に向けた取り組みなどが行われ、都心界隈の注目スポットの一つとなっている。



特集 「歴史文化」を
みつめ・そだて・つなぐ
**■古民家空き家を活かす
~美浜町での取り組み~**

美浜らしさを感じる黒い木造の「鎧廻いの家」の町並みが減ってきていた。行政と大学が連携し、高齢者向けサロンと子育て中の親子向けサロンを古民家空き家で実験的に開催し、古民家の魅力を多くの人に感じてもらった。古民家の保存・活用のため、今後もこうした取り組みを継続していくことが望ましい。(2013年、特集)

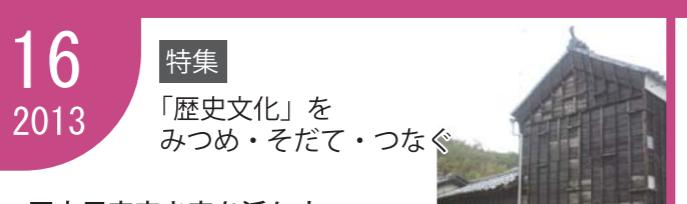
「空き家問題」に多く関わる端緒となった業務。残念ながらこの空き家に関しては、地域からの保存活用の声を生み出せずに終わってしまったが、大学と連携した活用実験はまちづくりにおける空き家活用の有効性を示したと思う。多様な主体をいかに巻き込み、地域の共感を生み出していくかが重要だろう。

特集 ひと・まちを動かすマネジメント

**■歴史文化を活かし新たな文化を紡ぎだす
~四間道・那古野界隈の地域まちづくり~**

2012年10月、地域の力で地域を育てるべく、地元組織など13団体が会員となり、まちづくり協議会が発足した。地域の認知度を把握するための住民向けアンケートの実施や、2017年3月廃校予定の小学校施設の跡地活用に向けて名古屋市に学区と共同で要望書を提出するなど、実践的な活動の経験を活かし、地域まちづくり構想案の確定を目指している。(2015年、特集)

まちづくり協議会の活動は続き、2016年1月に地域まちづくり構想を作成。なお、四間道・那古野界隈は、様々な団体により、商店街、町並み保存地区、堀川を舞台としたイベント、町家等のリノベーション、町並み保存に向けた取り組みなどが行われ、都心界隈の注目スポットの一つとなっている。



15
2012

特集 Take a wander
~街中をぶらぶら歩こう~
**■久屋大通が名古屋を変える
~豊かな公共空間を活かした都心の魅力アップ~**

栄地区には大須や栄ミナミなど面的に個性あるエリアが広がり、それを久屋大通が南北軸として結んでいる。衰退の懸念の声も聞かれる中、久屋大通を有効活用した魅力向上を目指し、ワークショップや7つの大学研究室による提案模型の展示など、市民を巻き込んだ取り組みが進められている。(2012年、特集)

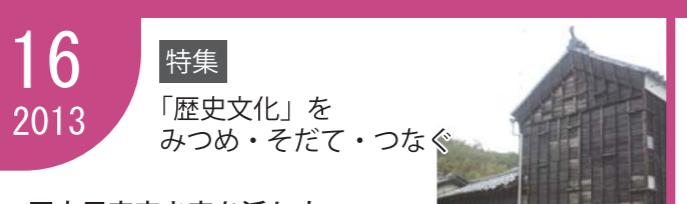
「空き家問題」に多く関わる端緒となった業務。残念ながらこの空き家に関しては、地域からの保存活用の声を生み出せずに終わってしまったが、大学と連携した活用実験はまちづくりにおける空き家活用の有効性を示したと思う。多様な主体をいかに巻き込み、地域の共感を生み出していくかが重要だろう。

特集 ひと・まちを動かすマネジメント

**■歴史文化を活かし新たな文化を紡ぎだす
~四間道・那古野界隈の地域まちづくり~**

2012年10月、地域の力で地域を育てるべく、地元組織など13団体が会員となり、まちづくり協議会が発足した。地域の認知度を把握するための住民向けアンケートの実施や、2017年3月廃校予定の小学校施設の跡地活用に向けて名古屋市に学区と共同で要望書を提出するなど、実践的な活動の経験を活かし、地域まちづくり構想案の確定を目指している。(2015年、特集)

まちづくり協議会の活動は続き、2016年1月に地域まちづくり構想を作成。なお、四間道・那古野界隈は、様々な団体により、商店街、町並み保存地区、堀川を舞台としたイベント、町家等のリノベーション、町並み保存に向けた取り組みなどが行われ、都心界隈の注目スポットの一つとなっている。



特集 「歴史文化」を
みつめ・そだて・つなぐ
**■古民家空き家を活かす
~美浜町での取り組み~**

美浜らしさを感じる黒い木造の「鎧廻いの家」の町並みが減ってきていた。行政と大学が連携し、高齢者向けサロンと子育て中の親子向けサロンを古民家空き家で実験的に開催し、古民家の魅力を多くの人に感じてもらった。古民家の保存・活用のため、今後もこうした取り組みを継続していくことが望ましい。(2013年、特集)

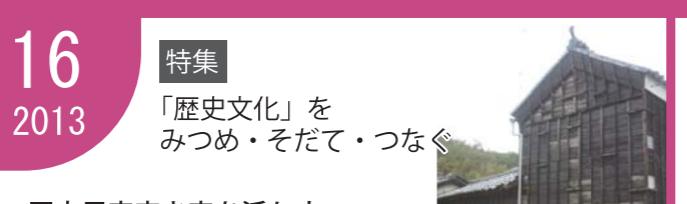
「空き家問題」に多く関わる端緒となった業務。残念ながらこの空き家に関しては、地域からの保存活用の声を生み出せずに終わってしまったが、大学と連携した活用実験はまちづくりにおける空き家活用の有効性を示したと思う。多様な主体をいかに巻き込み、地域の共感を生み出していくかが重要だろう。

特集 ひと・まちを動かすマネジメント

**■歴史文化を活かし新たな文化を紡ぎだす
~四間道・那古野界隈の地域まちづくり~**

2012年10月、地域の力で地域を育てるべく、地元組織など13団体が会員となり、まちづくり協議会が発足した。地域の認知度を把握するための住民向けアンケートの実施や、2017年3月廃校予定の小学校施設の跡地活用に向けて名古屋市に学区と共同で要望書を提出するなど、実践的な活動の経験を活かし、地域まちづくり構想案の確定を目指している。(2015年、特集)

まちづくり協議会の活動は続き、2016年1月に地域まちづくり構想を作成。なお、四間道・那古野界隈は、様々な団体により、商店街、町並み保存地区、堀川を舞台としたイベント、町家等のリノベーション、町並み保存に向けた取り組みなどが行われ、都心界隈の注目スポットの一つとなっている。



15
2012

特集 Take a wander
~街中をぶらぶら歩こう~
**■久屋大通が名古屋を変える
~豊かな公共空間を活かした都心の魅力アップ~**

栄地区には大須や栄ミナミなど面的に個性あるエリアが広がり、それを久屋大通が南北軸として結んでいる。衰退の懸念の声も聞かれる中、久屋大通を有効活用した魅力向上を目指し、ワークショップや7つの大学研究室による提案模型の展示など、市民を巻き込んだ取り組みが進められている。(2012年、特集)

「空き家問題」に多く関わる端緒となった業務。残念ながらこの空き家に関しては、地域からの保存活用の声を生み出せずに終わってしまったが、大学と連携した活用実験はまちづくりにおける空